

学習展開例

対象校種：小学校 授業時間 45分

対象教科：6年道徳



沼津市教育委員会
指導主事 加納 真

新着

6000人の命を救うビザ 杉原千畝の生き方から社会正義について考える

児童生徒の思考の流れと活動の流れ

公正・公平って難しそうだけど、できていることもあるんだな

なかなか、〇〇さんのようにはできそうもないな



番組部分視聴 (3分:開始~2分47秒)
命を救うビザって、どのようなものだろうか？

番組部分視聴 (20分:13分26秒~33分5秒)



領事館前で日本の通過ビザの発給を求めるユダヤ難民



ビザの発給を認めないという外務省からの回答



ビザの発給を決断した杉原千畝

外交官として
政府の決定に従うべき

政府の決定に背いても
ビザを発給すべき

- ・政府の決定に背いたら、自分も家族も罰せられる
- ・従えば、将来は約束されている

- ・自分がビザを出せば、目の前のユダヤ人たちを救うことができる
- ・人として、目をつぶることはできない

どうして国策に逆らってまでビザを書き続けたのか？

- ・自分や自分の家族だったらと考えたら、放っておけない
- ・目の前で苦しんでいる人を見殺しにはできない

- ・差別や偏見はいけないことだ
- ・人の命よりも大切なものはない。杉原は公正・公平が大事だと思っていたので、政府に逆らっても助けた。

自分だったらできるだろうか？

- ・人に流されることなく、日頃から自分の考えをしっかりとつことが大切だ
- ・誰に対しても差別をせず偏見をもたずに接していきたい



「勇気ある人道的行為を行った外交官 杉原千畝氏を讃えて」と刻まれたプレートが外務省に設置された

教師の支援と評価

- 教師が見つけた公正・公平な子供の言動を紹介し、それに対する考えを尋ねる。
- 番組の冒頭を視聴することで、時代背景やユダヤ人への迫害の事実、杉原千畝が発給した命を救うビザについて知り、教材への関心を高める。

- 政府にビザの発給の許可を求める千畝と許可はできないという外務省、窓の外でビザの発給を待ち続けるユダヤ人たちと家族の言葉。国外退去期限が迫る中、外交官として葛藤する千畝の心情を話し合うことを通して、価値に迫っていく。

- 価値に対する多面的な見方を引き出すために、食事もろくに取らず、朝から夕方遅く、手が動かなくなるまでビザを書き続けた千畝を支えていたものは何なのか議論する。

- 価値理解を基に、日常生活に目を向け、今までの自分自身を見つめてみるように促す。

- 時間が確保できるのであれば番組の続きを視聴し、人道主義を貫き通した杉原千畝の生き方から、持続可能な社会について視野を広げたい。

とせしむる